

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つながろう!岩手

第183号

令和4年3月号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切に、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

東日本大震災津波 岩手県・大槌町合同追悼式

岩手県・大槌町
IWATE・OTSUCHI

岩手県と大槌町は、東日本大震災津波から11年を迎えた令和4年3月11日(金)、大槌町役場多目的会議室で、東日本大震災津波岩手県・大槌町合同追悼式を執り行いました。

当日は、ラーム・エマニュエル駐日米国大使御夫妻や新妻秀規復興副大臣をはじめとした御来賓や大槌町の御遺族など約150名が参列し、大槌町虎舞協議会による追悼の「虎舞」が披露された後、地震発生時刻の14時46分に合わせて黙とうを捧げました。

式辞で、達増知事は「災害公営住宅の完成や三陸沿岸道路の全線開通などハード整備が進んでいる一方で、復興は、まだ終わっていません。一人ひとりに寄り添った支援を続け、被災地の実情に即した対策を講じていき、更なる段階の復興を進めて参ります」と述べました。また、御遺族代表として、津波で母と妻を亡くした吉里吉里地区の芳賀俊明(はが としあき)さんが「あの日、もう少し



式辞を述べる達増知事



御遺族を代表して追悼のこぼを述べる芳賀さん

早く避難をはじめていれば、2人は助かったかもしれません。11年経った今でも、後悔と寂しさがこみ上げてきます。震災を風化させず、次の世代に伝え、私と同じ思いをする人を一人でも減らしたいです」と追悼のこぼを述べました。

この後、参列者は献花台に花を手向け、犠牲になられた方々を悼み、大切な人に想いを寄せました。



献花をする平野大槌町長



黙とうを捧げる参列者



参列者による献花

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

岸田総理大臣が追悼のため来県

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

令和4年3月12日(土)、岸田文雄内閣総理大臣が、東日本大震災津波の犠牲者追悼のため東北の被災地を訪れ、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園で献花・黙とうを捧げました。

その後、東日本大震災津波伝承館で、達増知事と戸羽陸前高田市市長から復興状況等について説明があり、知事からは、主要魚種の不漁や新型コロナウイルス感染症による地域経済への影響、被災者のコミュニティ形成やこころのケアなどの課題を伝え、国に対して引き続き必要な財源や支援等を要望しました。

岸田総理大臣からは、国として課題を踏まえ切れ目のない支援をしていくことが述べられました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興危機管理室
☎019-629-6924



復興状況等の説明の様子

制作

「いわての復興教育」絵本 「てとてをつないで」制作

岩手県
IWATE

令和4年2月、岩手県は、「いわての復興教育」の一環として、未就学児向け教材の絵本「てとてをつないで」を制作しました。

この絵本は、「いわての復興教育」の3つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」のうち「いきる」をテーマにしたもので、絵本を活用して、就学前の段階から「いわての復興教育」を進めようとするものです。

絵本では、「ぼく」と「おねえちゃん」が2人だけで初めて列車に乗り、祖父母の家に出掛けるなかで、三陸鉄道の車窓からきれいな海を眺めたり、暗いトンネルの中では手を握り合って不安を乗り越える姿が描かれており、いのちや家族の大切さ、地域の良さに気付かせる内容となっています。

県では42,000部を印刷し、今後、未就学児への読み聞かせや、小学校や中学校と連携した幼児・園児とのふれあい体験、家庭科授業の教材として活用していきます。



「いわての復興教育」絵本「てとてをつないで」

■問い合わせ

岩手県教育委員会事務局学校教育室

☎019-629-6139 絵本についてはこちら➡



開始

三陸鉄道応援！ クラウドファンディング開始

岩手県
IWATE

令和4年3月11日(金)から、岩手県では、三陸鉄道のスタディーツーリズムを充実させるため、クラウドファンディング型ふるさと納税をスタートしました。



三陸鉄道

具体的には、被災箇所や沿線の観光地などを紹介する動画の制作とその映像を車内で視聴するモニター、タブレット端末の整備を計画しています。目標金額は1,420万円です。

寄附金額に応じて、三鉄カーリーやさんてつサイダー、全線運行再開記念レールなどの三鉄グッズや、普段立ち入ることのできない車両基地や指令室の見学、洗車機体験など、三鉄ならではの返礼品を受け取ることができません。

三陸鉄道は復興のシンボリック存在です。スタディーツーリズムの充実による、より効果的な震災伝承と三陸地域の魅力発信のため、皆様の応援をお願いします。

■問い合わせ ふるさと振興部地域振興室

☎019-629-5184

3月11日から3月31日

まではこちらから➡



➡4月1日から6月30日

まではこちらから



世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわて TSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和4年3月11日(金)、東日本大震災津波発生から11年を迎えたこの日、高田松原津波復興祈念公園には、県内外から多くの方々が訪れました。

来園者は、伝承館の展示で震災津波や復興の歩みについて学び、防潮堤から望む海や奇跡の一本松などを見ながら、それぞれ11年前の発災当時に思いを馳せていました。

そして、地震発生時刻の14時46分を迎えると、園内の方々は海に向かい黙祷し、震災津波で尊い命を失われた方々に祈りを捧げました。その後も、伝承館の見学や、献花台に花を手向ける方々など、来園者は途切れることがありませんでした。

また、同日16時半から、園内の国営追悼・祈念施設の水盤周辺に、内陸の高校生が手作りで制作したものなど計70本のキャンドルが「3.11追悼と復興の灯」として灯され、多くの方が足を止めて揺れるキャンドルの灯を見つめながら、大切な人に想いを寄せていました。

東日本大震災津波伝承館は、この悲しみを二度とくり返さないために、震災津波の事実と教訓を国内外に、未来に、伝え続けていきます。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館

☎0192-47-4455



発災時刻・防潮堤での黙祷の様子



「3.11追悼と復興の灯」を見つめる来園者

受賞

大槌高校復興研究会、第26回防災
まちづくり大賞「総務大臣賞」受賞大槌町
OTSUCHI

令和4年2月25日(金)、岩手県立大槌高校復興研究会定点観測班が、地域に根差した団体の防災に関する取り組みを表彰する第26回防災まちづくり大賞を受賞しました。



定点観測の様子

定点観測は、平成25年4月から年3回、町内約180地点の写真を撮り続け、復興で変わりゆく街並みを記録してきた活動です。

今回の受賞は、甚大な津波被害を受けた地域の高校生が定点観測という活動を通じて高校生が復興過程に向き合い、写真展の開催や防災紙芝居、防災絵本、さらにアニメーションの制作へと発展していることが高く評価されました。

生徒からは、「協力してくれた町の人たちや先輩のお陰で賞がとれました。評価していただき嬉しい」と喜びの声が上がりました。同校は、今後も継続して復興に携わる活動を続けていきます。

■問い合わせ 岩手県立大槌高等学校

☎0193-42-3025

大槌高校復興研究会についてはこちら→



公開

陸前高田市、東日本大震災
追悼施設一般公開開始陸前高田市
RIKUZENTAKATA

陸前高田市東日本大震災追悼施設(写真提供:陸前高田市)

令和4年3月11日(金)、陸前高田市が、市の中心市街地にあるJR陸前高田駅の近くに整備を進めていた東日本大震災追悼施設の一般公開を開始しました。

この施設は、震災犠牲者の追悼と鎮魂、震災の記憶と教訓の継承を目的として整備を進めてきたもので、慰霊碑のほか津波の犠牲となった1,709名の刻銘板と、あずまやなどの休憩施設があります。

公開された追悼施設では、犠牲になられた方々に祈りを捧げるとともに、震災の記憶と教訓を忘れないよう伝承していきます。

■問い合わせ 陸前高田市

☎0192-54-2111



さんりくイベント情報

World BOSAI Walk
TOHOKU +10青森県 / 岩手県 / 宮城県 / 福島県
AOMORI / IWATE / MIYAGI / FUKUSHIMA

東日本大震災津波の被災地から世界に防災を発信する国際会議「第3回世界防災フォーラム」(主催:一般財団法人世界防災フォーラム(東北大学災害科学国際研究所内))の関連行事として、World BOSAI Walk TOHOKU +10が開催されています。

World BOSAI Walk TOHOKU +10は、福島県いわき市から青森県八戸市までの被災地を実際に歩くもので、令和4年2月23日(水)から3月14日(月)までは、宮城県仙台市まで踏破しました。今後、宮城県南三陸町を出発し、4月11日(月)に陸前高田市に立ち寄り、みちのく潮風トレイルや震災学習列車などを体験しながら、岩手県の沿岸を南から北に縦断する予定です。

また、このイベントは、東北太平洋沿岸を実際に歩いて聞いた復興に取り組む方々の生の声や「より良い復興(Build Back Better)」の取組を、SNSや動画配信サイトで多言語で発信するもので、「防災(BOSAI)」の普及が期待されます。ぜひご覧ください。

●開催期間 令和4年4月9日(土)～4月23日(土)

●開催場所 宮城県仙台市から青森県八戸市までの東北太平洋側

●問い合わせ 一般財団法人世界防災フォーラム

☎022-263-1688

←公式ホームページはこちら



動画配信サイトはこちら→

釜石市郷土資料館企画展
「津波記念碑」釜石市
KAMAISHI

釜石市郷土資料館で、先人の声に耳を傾け防災意識を高めるため、過去の津波の状況や教訓を後世に伝える津波記念碑の企画展が開催されています。企画展では、東日本大震災津波時に被災し、銘板部分の一部が破損した、明治三陸津波の壊滅的な被害を伝える「海嘯遭難記念之碑」のレプリカや、石碑の文字を写し取った拓本、明治、昭和の大津波を伝える津波記念碑や東日本大震災津波後に建立した記念碑など80点の写真が展示されており、市内各地の津波記念碑を紹介しています。



展示の様子(写真提供:釜石市郷土資料館)

令和4年3月3日(木)～5月8日(日)
※5月3日(火) 臨時開館

●開催期間 令和4年3月3日(木)～5月8日(日)
※5月3日(火) 臨時開館

●開館時間 9:30～16:30※最終入館16:00

●入館料 大人200円/団体100円(20名以上)※乳幼児、小中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの人は無料

●休館日 毎週火曜日

●問い合わせ 釜石市郷土資料館
☎0193-22-2046





三陸の春牡蠣

最も身が大きく
美味しい春牡蠣が
楽しめます。

春の訪れを告げる「春牡蠣」は、山の栄養を含んだ雪解け水が流れ込む海の中で、夏の産卵期に向けて栄養をため込むため旨味が増し、1年の中で最も身が大きく、美味しいとされています。

「春牡蠣」は、宮古市の「花見かき」、釜石市の「桜満開牡蠣」、陸前高田市の「雪解け牡蠣」など、各地域に独自のブランドがあり、生食はもちろん、蒸しても焼いても濃厚な味を堪能できます。昨年12月に全線開通した復興道路・復興支援道路をドライブして、三陸の梅や桜を楽しみながら春牡蠣をぜひ味わってください。

三陸の春牡蠣は、沿岸各地の産直や飲食店で販売されるほか、オンラインショップでも購入できますので、ぜひご賞味ください。

■三陸の春牡蠣に関するお問い合わせはこちら

岩手県沿岸広域振興局水産部 ☎0193-27-5526



花見かき



水揚げの様子



いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介しします。第129回は種坂奈保子さんをご紹介します。



陸前高田
ほんまる株式会社
たわさか なおこ
種坂 奈保子さん

～ 子どもの未来に面白いまちを～

PROFILE —愛知県出身。京都市立芸術大学卒業。平成23年11月に陸前高田市に移住。NPO法人エティックによる被災地支援の「右腕プロジェクト」に応募し、陸前高田未来商店街の立ち上げに携わる。いわて復興応援隊、陸前高田市復興支援員などを経て、令和元年より陸前高田ほんまる株式会社のデザイナーとして活躍。

陸前高田の未来が見たい

種坂奈保子さんと陸前高田市とのつながりは、平成19年、学生時代の一人旅でけんか七夕を観ようと立ち寄り、地元の人たちとふれあったことがきっかけです。

東日本大震災津波後、陸前高田市が気がかりだった種坂さんは、被災地で頑張る人をサポートする「右腕プロジェクト」に参加します。陸前高田未来商店街の立ち上げから始まり、いわて復興応援隊、陸前高田市復興支援員と所属を変えながらも、市のまちづくりに携わってきました。「仮設だった商店街が本設される話を聞いて、その先の未来を陸前高田で見たいという思いがありましたし、市内で困っている事業者さんたちのお手伝いがしたかったです」と振り返ります。

面白い街を、子どもたちに

現在は、まちづくり会社「陸前高田ほんまる株式会社」の社員となり、「デザインができるイベント屋さん」として活躍しています。昨年は、陸前高田をゆるく楽しむ情報誌「やんべに」を発行し、空き地をポジティブに捉え、お店を出したくなるようなまちの面白さを伝え、支援制度を紹介する特集などが評判を呼びました。

種坂さんは名古屋から陸前高田市に移住した経験から、「住む場所を変えれば自分のやれることがあると知ってもらいたいです。また、これまでは自分が楽しければという感じでしたが、令和元年に出産してからは、子どもたちに面白い街を残したいという気持ちが強くなりました。」と陸前高田市のまちづくりへの思いを語ります。

岩手県の被害状況

令和4年2月28日現在

- 人的被害 死者：5,145人（余震、震災関連死を含む）
行方不明者：1,110人
- 建物被害（住家のみ、全半壊）26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和4年2月28日現在

- 義援金受付状況 188億1,245万円(98,515件)
 - 寄附金受付状況 203億2,924万円(14,259件)
 - いわての学び希望基金(※) 受付状況 104億5,659万円(26,414件)
- ※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第183号

令和4年3月25日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・印刷／永代印刷株式会社